

かきはる

由布市立庄内中学校
学校通信 第9号
2020/12/10 発行
文責 首藤 茂

人権講演会「セクシャリティについて考える」

12月4日（金）、大住珊土さんを講師にお迎えして「セクシャリティについて考える」という演題で午前中に生徒、午後に保護者対象にして人権講演会を開催しました。

大住さんは、「セクシャリティ（性のあり様）とは何か？」と「LGBT（性的少数者）と言われる人がどんなことで困っているか」について講演しました。「LGBT を差別しないようにしようとする社会の流れは悪くはないが、性的少数者が差別される側にグループ化され、距離が離れていっている。セクシャリティはみんなが持っている、みんなが当事者であるという意識を持ってほしい。そして、それぞれが自分のセクシャリティを大切にすることが大事である。」また、「自分と違う人と出会うことがたくさんあると思うが、違う人ほどその人と近づいて、どう違うかを知ってほしい。そうすることで視野を広げることができる。積極的に近づいていける人になってほしい。」と話してくれました。



（生徒の感想）

○私は、「女らしい、男らしい」という言葉が良くないのではと思いました。自分らしさをうまく出せない人には「女らしく」とか「男なんだから」などの言葉はとても苦痛だと思うので、性別ではなく人として見ていきたいと思いました。

○今までの知識プラス今日の講演でセクシャリティについてたくさんを知ることができてよかったと思いました。一人ひとりが「違うりんごの色」でいいのだと納得させられてとても安心しました。

（保護者の感想）

○セクシャリティはみんなが当事者であるという部分に納得したのと同時に、自分の中に「性別2元論」でカテゴライズしている部分がたくさんあることに気付いた。セクシャリティの考え方を非常に端的・明確に話してくださって、とても理解しやすかったです。この考え方で家族とも話せるとよいなと思いました。

○中学校では、女子のスクワットの制服がほとんど導入されていないし、高校もまだまだ少ないです。増えてほしいです。